生きがいづくり講演会
「しあわせの六十越え」を開催

とき　11月23日（祝）午後1時30分～
ところ　文化体育館（小ホール）

健康、生きがい、しあわせ・・・。心豊かなセカンドライフを過ごすためのきっかけづくりとして、今、ラジオや新聞で活躍中の近藤さんを講師に招き、講演会を開催します。

▼とき　11月23日（祝）午後1時30分～（受付開始＝同1時）
▼ところ　文化体育館
▼定員　先着１５０人
▼入場料　無料

問い合わせは、コミュニティ課生きがいづくり室（７６６・８７８４）へ。

近藤勝重さんのプロフィール

毎日新聞専門編集委員。

早稲田大学卒業後、毎日新聞社に入社。論説委員、サンデー毎日編集長、毎日新聞夕刊編集長を歴任。

ＭＢＳラジオ「はやみみラジオ！」（月～金あさ６時）出演中。

「しあわせの雑学」「大感動！」その他多数の著書を持つ、人気コメンテーター。

「ぶらり いながわ 歴史街道」を開催

商工会主催

とき　11月10日（土）午前10時～午後３時
※雨天順延11日（日）
ところ　メイン会場 万善（道の駅いながわ隣）

猪名川町商工会では、この春開通した歴史街道を楽しく歩いていただくイベントを開催します。

来て・見て・楽しんで猪名川町の秋を満喫してください。

問い合わせは、商工会（　766－3012）へ。

当日の主な内容

◎歴史街道ウォーククイズ

万善イベント会場から、巡回バスで多田銀銅山悠久の館・ふるさと館のいずれかに行き、クイズなどを楽しみながら歴史街道を歩いて、イベント会場まで戻ります。クイズ正解者の中から、抽選で商品が当たります。

◎歴史街道フォトコンテスト

ウォーク中のワンショットを応募。後日選考し各賞を決定します。

◎各種模擬店・町内事業所紹介コーナー
◎ボランティアガイドによる銀山案内
◎猪名川町歴史紹介パネルを設置

万善イベント会場のスケジュール

9：30	歴史街道ウォーク参加者受付
10：00	開会　巡回バス出発
11：30	お宝探しゲーム（1回目）
12：15	プチお宝自慢コンテスト
12：30	巡回バス最終便
13：00	痛快時代劇「猪名川伝説の勇士」
13：30	お宝探しゲーム（2回目）
14：00	プチお宝自慢コンテスト結果発表
15：00	閉会

はい！ポーズ

中田（なかだ）　雄太（ゆうた）くん
1歳5カ月（白金）

自動車が大好きなゆうた。将来は車屋さんかな？元気に育ってください。

父　宏明・母　登志子さん

稲岡（いなおか）　陽菜（はるな）ちゃん
1歳6カ月（白金）

えがおい～っぱい！！パパとママの宝物　元気に大きくなぁれ。

父　健治・母　和美さん

21世紀の主役たち

日中障害者芸術展出展者
佐久良理さん・藤原恵さん

真田町長が訪ねた

出展作品を真田町長に披露する佐久良さん（左）と藤原さん（右）

7月25日から同29日までの間、中国で開催された「第1回日中障害者芸術展」に日本代表団として佐久良理（さくらさとし）さんと藤原恵（ふじはらめぐみ）さんの作品が出展されました。そのお二人が作品を持参し、町長を表敬訪問しました。

町長　日中障害者芸術展への出展おめでとうございます。佐久良さんは「ぶんぶくちゃがま」の紙芝居、藤原さんは「すいか」をイメージした絵画を出展されたのですね。

佐久良・藤原　ありがとうございます。がんばって作りました。

町長　小さな頃から絵が好きだったのですか。

藤原母　もともと物作りは好きでしたが、絵は大人になってから始めました。

佐久良母　中学時代には3年間の行事や思い出を綴った約10ｍの絵巻を作成するなど、学生の頃から絵に親しんできました。楽しい学生生活を送ることができたので、このような絵が描けるようになったと感謝しています。

絵を通して日中交流

町長　心温まる色彩豊かな作品ですね。

佐久良母　この子達は心がきれいなので、それが見たものを純粋に受け入れて表現する力になっているのだと思います。

町長　絵を描くことで、内面の変化もあったのではないですか。

藤原母　絵を描き始めてから、さまざまな色彩を覚え、表現が豊かになりました。

佐久良母　紙芝居によく出てくるお城やお寺などに興味を持ち、いろいろなお城を見に行くなど、一つのことを深く追求するようになりました。

佐久良　今年は「一寸法師」を作ります。

藤原　私は「いながわエイブル・アート（障害者絵画展）」に出展したいと思っています。

町長　この素晴らしい才能を育てていけば、もっともっと可能性は広がります。じっくりと才能を伸ばしていってください。今後のご活躍を期待しています。

人権作文

「渋染一揆から学んだこと」

六瀬中学校1年　中元美帆さん（大島小学校6年の時の作品）

私は、「渋染一揆」を読んで、いろいろ感じたり、学んだりしたことがありました。

一つは、学校生活を渋染一揆に置きかえて感じたことです。私は、部落民衆のようにつらい思いをしたこともあるし、お上達のようにつらい思いをさせたこともあります。つらい思いをさせたのは、ある子をいじめたことです。今思うと、その子は何一つ私に悪いことしてないのに、どうしてあの時私はあんなことをやったのだろうと思います。でも、その理由がわかりました。きっと私は、ふだんの生活の中でイヤなことをされたり、言われたりして、心の中でムカムカして、自分よりも力の弱い者をいじめて、そのムカムカをその子に当てていたんだと思います。でもそのムカムカを当てられた子は、すごく悲しくて、苦しくて、つらくて、あの場では泣かなかったけれど、すごく今すぐにでも大泣きしたかったのじゃないかなと思いました。

今は、すごく明るく元気で、時にはケンカもするけど、私とも仲よくやってくれて、私が泣いた時ははげましてくれて、とてもいい友だちです。あの時、すごくその子を悲しませ、つらい思いをさせて「ごめん。」も言えなかった私に、その子は、やさしくしてくれて、元気にしてくれて、すごく私は幸せ者だなと思います。

今だから言える、「ごめんね。そしてありがとう。」あの子はすごくいい子だと思います。

二つ目は、部落民衆のがんばりです。私は、触書を必死で取り消してもらおうとして、がんばって嘆願書を作って命がけで強訴して、本当にすごいと思いました。それだけ村のことや家族のことを考えているんだなと思いました。最後には触書を取り消してもらえて、農民たちも部落民衆に対する差別をやめて、部落民衆たちもすごくうれしかったのだろうと思いました。私は、がんばってがんばれば何でもできるんだということを学びました。私も、何でもすぐにあきらめないでがんばろうと思いました。

私は、渋染一揆からいろんなことを学び、感じました。この学んだこと、感じたことを今後の学習や生活にいかしていきたいです。